

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年3月25日

事業所名 さぼーとせんたーi'm

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	定員も決まっている。活動スペースも個々のニーズに合わせてとっている。活動スペース以外の、収納スペースが足りない。イスやバギーの置き場所に苦慮している。	
	2	職員の配置数は適切である	3	3	適切。保育士や看護師の日々の調整にも工夫している。 配置は適切であるが、日々の利用児の状況によっては人手が足りない事がある。協力して支援している。 休憩が取れない。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		情報伝達等への配慮が適切になされている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		子ども達が心地よく過ごせるよう活動に合わせた空間になっている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	2	職員一人ひとりが振り返りを行うよう意識して工夫している。 PDCAサイクルに乗っているかは不明	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	保護者とも沢山のお話を通して、ご家族や保護者の思いにも寄り添うことを意識している。 保護者からの意向や訴えには迅速に対応できている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	支援の質の評価、改善内容を日々の振り返りで話している。HPへの公開も行っている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		毎年4回の法人内全体研修を実施。他にも外部の研修等にも参加している。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		作成している	
適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		6		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	1	計画書の説明をする際、支援の申し送りをする際等、様々な場面で保護者と会話してその場で答えたり、適宜専門職が対応する等している。また、必要に応じてミーティングで話し合い対応している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	2	計画に沿って支援している。 個人の課題としてできていない	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	チームで行っている。 時間がとれない。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		子ども達のニーズに沿って活動を工夫している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	1	その時々の子どもの遊びの状況に応じて組み合わせるよう、計画している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		毎朝のミーティングで、内容、役割について確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	2	その日その日で、状況に応じて職員間で振り返りの時間を取っている。振り返りのような雑談になっている様な事がある。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		記録は徹底されており、内容について申し送りの際に共有している	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		積極的に参加できるよう努力している。担当者会議にも状況に合わせて参加している	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		関係機関との情報共有を積極的に行っている。必要に応じて行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6		医療機関とも積極的に連携している。もっと積極的に発信、連携する必要があると感じる事がある。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6		主治医とも連携し、看護指示書も頂いている もっと積極的に発信、連携する必要があると感じる事がある。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		移行支援について保護者、関係機関との情報を共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	最適な支援につなげられるよう連携し、必要に応じて研修にも参加できるようにしている。 情報共有はされているが、助言や研修の機会は不明	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	2	利用している他児の兄弟姉妹等と関わる機会がある。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	2	コロナ禍において、会議参加は無かったが、会議への情報共有は積極的に行っている	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		常日頃から、保護者との情報共有を積極的に行っており、共通理解に努めている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	2	法人内で実施しているプログラムへの参加を案内している。		
保護	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		利用契約時に、説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		計画書の説明を行い相互理解に努めている。 計画書の同意も得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		日々、保護者とのコミュニケーションに努め相談に乗っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1	コロナ禍で、開催は無かったが、送迎時に保護者同士会話をする機会があり、情報共有できている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		申し入れがあった際には、職員間で検討し対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		保護者へ、活動の様子、行事の予定等お知らせしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		注意している	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		意志を汲み取る努力を常に意識し配慮している	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3	コロナ禍で行事は全て中止となったが、散歩や公園へのお出かけ等地域住民とふれ合う機会はあった。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		定期的に訓練を行っている	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		できている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		保護者を通して情報共有し、看護指示書もとずいて対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		ヒヤリハット事例があった際には報告し共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		毎年、法人内で研修を行い、適切に対応している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。